

つなぐ

TSU
NA
GU

2021

7

月号

SUMMER

「Webにも使える エツと目を引くキャッチコピー講座」を開催

「相手」の視点で考え、「相手」にとっての価値をことばにしよう



2021年6月5日(土)、団体応援講座として「Webにも使える エツと目を引くキャッチコピー講座」をオンラインで開催し、31名が参加しました。団体の活動について、より多くの人に関心をもってもらうためにも「ことば」の達人になってほしいという思いから企画した講座です。Willing hands On代表の高瀬桃子さんを講師にお招きし、伝わる「ことば選び」の方法を学びました。

情報を届けたい「相手」の人物像を具体化する

相手に振り向いてもらえるようなキャッチコピーをつくるためには、まずはその相手の具体的な人物像を考えることが大事だそうです。例えば、「子育て中のママ」だと曖昧すぎるので、そのママの年齢は?こどもの年齢は?ママは育休中か?など深堀りして具体化し、リアリティを高めていく必要があります。人物像を具体化することによって、その相手に届くことばを選びやすくなります。

相手にとってどんないいことがあるのかをことばにする

具体的に描いたその人物像にとって、自分たちの活動やイベントにはどんな価値があるのかを端的に表現します。自分が言

いたいことではなく、相手にとって「どんな問題が解決されるのか」、「何が叶えられるのか」、相手の立場に立って考えることが重要です。また、活動やイベント内容の「描写」ではなく、それによって「解決・実現」されることを伝えることで、より多くの人に参加したいと思ってもらえるようになります。そして、そもそも活動やイベントが相手にとってうれしい内容になっているかを再点検することも必要です。

高瀬さんから「キャッチしてもらえる情報とは?」などの問いが投げかけられると、参加者のみなさんからはたくさんの回答がチャット欄に書き込まれました。また、講座の最後には、各自の活動に関するキャッチコピーをそれぞれが実際に検討。手を挙げてくださった数名の方に発表してもらい、高瀬さんからアドバイスを受けました。

活動やイベントに込める思いが強いと、自分の思いばかりを伝えてしまい「相手」にとっての価値を考えることを疎かにしてしまいがちですが、「相手」の視点で考えなければ、伝わらないメッセージになってしまうのです。ぜひみなさんの活動について、伝えたい相手を振り向かせるようなキャッチコピーを考えてみてください。





まちプラリサイクルステーション オープン！～リサイクルを地域交流のきっかけに～

6月15日(火)、まちづくり活動プラザ(以下、まちプラ)1階に「まちプラリサイクルステーション」がオープンしました。リユース・リサイクルの回収拠点ですが、単に不要になったものを回収するのではなく、「あなたが要らなくなったモノも他の誰かにとっては有効活用できるモノ」という視点を大切に回収しています。SDGs関連の展示やまちプラで活動中の団体紹介もされており、市民活動への関心を深めたり、各団体や品物を持ち込んだ方々との交流を楽しんだりすることもできるスペースとなっています。

運営はまちプラ連絡会(まちプラを利用している8つの事業者から成る)が行っています。回収可能なものは、衣類やバッグ、本、食品から小型家電や歯ブラシに至るまで、多岐にわたります。オープン初日にも関わらず、早速毛布や衣類を提供した方々のおかげで、用意されていたカゴの一部が溢れるほどの盛況ぶりでした。回収されたものがまちプラからどのような経路でどこに渡り、何に活用されるのかが一目で分かるように書かれているので、リサイクルに対する意識がますます高まりそうです。

当日は、ごみ減量に取り組む市民活動団体「チーム530」主催の環境学習会も開催され、16名が参加しました。この学習会は市の「出前講座」を利用したもので、ごみゼロ課職員から浦安市のごみや食品ロスの現状と対策について学びました。

コロナ禍の影響で増加している家庭系ごみ。そのうち、浦安市では食品ロスの割合が10%を超え、さらにその10%は全くの手つかずで捨てられているとの話には衝撃を受けました。食品ロスを削減するために心がけていることについての意見交換では、「大根の皮を佃煮にするなど、野菜はできるだけ皮まで食べる」、「紙でできたお弁当パックなど、包装容器に配慮されたものを買う」、といったアイデアに、参加者同士多くの気づきを得ることができました。

コロナ禍で自炊やテイクアウトの機会が増えてごみを意識したり、断捨離を進めていたりする方も多いのではないのでしょうか。もったいない気持ちと品物をリサイクルステーションに届けた後は、地域交流でリサイクルのよもやま話に触れ、寄付された本の並ぶ2階のブックカフェでほっと一息。そんなひとときを過ごしてみるのはいかがでしょうか。



まちプラリサイクルステーション概要

場所:まちづくり活動プラザ1階展示室(管理室となり)

回収時間:10～17時(年末年始等、休館日を除く) 平日10～12時までスタッフ在室

詳細は
こちらから ▶



みんなで取り組むSDGs

まず私にできることから…



みなさん、「SDGs」ってご存知ですか。

最近、新聞や雑誌、テレビなど、この文字やマークを見かけることが増えてきました。でも、「聞いたことはある」とか「何となく知っている」という方が多いのではないのでしょうか。SDGsとは「持続可能な開発目標」、17の目標、169のターゲットから成り、地球上の「誰一人取り残さない」という理念を掲げています。

ところで、近年の異常気象やそれに伴う自然災害、それも甚大な被害だと知らされると、「このままで、大丈夫?」と誰しも不安

な気持ちになるでしょう。今、国内外で起こっていることに目を向けると、他人事ではなく、自分たちの暮らしにも少なからず影響していることに気づきます。

このような異常気象を引き起こすとされる地球温暖化などSDGsで掲げられている課題は地球規模で考え解決すること。国レベル、あるいは企業での取り組みもありますが、市民レベルでもできることがたくさんあります。市民活動団体のみなさんも「私たちにできること」という視点で“まずはアクションを！ 小さなことでも大きな課題解決につながる”と活動しています。

活動紹介



温暖化防止うらやす

市民活動フェスティバルなど地域のイベントで、自転車をさかさまにしたような手回し発電機をご覧になったことはありませんか。これは実際に発電するを経験し、エネルギーについて考えるきっかけ作り。エネルギーと地球環境についての学習会開催、アンケート調査など、さまざまな方法で温暖化防止を市民に呼びかけています。今年度は県民の環境活動支援事業に採択され、子ども向けに環境学習プログラムの実施、大人向けとして講演会や見学会を予定しています。



浦安三番瀬を大切にす会

毎回多くの参加者が集まる三番瀬階段護岸の清掃活動、「三番瀬クリーンアップ大作戦」は23年間続いている市内では馴染み深い活動。その事務局を務めるのが「浦安三番瀬を大切にす会」です。昨年からは「うらやす三番瀬感謝祭」と名前をかえ続けられています。

最近では、深刻な問題となっているプラスチックごみについて関心を持ってもらおうと「プラごみ一掃大作戦」も開催しています。ひとりでも多くの市民が水辺や水辺を取り巻く課題に関心をもち、その結果、環境保全につながるよう、フィールドワークを中心として活動しています。



スマイル♡こども食堂浦安

地域の「こどもの孤食」や「貧困」の問題を解決する力になりたい、そんな思いで「こどもが一人で安心して来られる場所、低額で食事を提供できる場所=こども食堂」を運営しています。今はコロナ禍、こどもたちを集めて食事を提供することは難しく、月に2回のお弁当配食を実施。心を込めて作ったお弁当は、とても美味しいと評判です。また、まちプラリサイクルステーションにて不要になった食品や衣類を募り、それを必要とする家庭に届ける活動も。将来的には、こども食堂が地域の人が集う場所となり、こどもが抱える問題を発見し、みんなで解決方法を探る場所にしたいと考えています。





NPO法人 SSAI協会



SSAI協会は設立2年目、障がい者スポーツの認知度向上を狙いとしたイベントの開催、障がい者のスポーツ環境の整備、トレーニング事業などを行っている団体。理学療法士やトレーナーが中心になってその経験やスキルを活かして活動しています。市内においては、特に高齢者を対象としてフレイル(加齢により心身が老い衰えた状態)予防や改善を目的に活動しています。「コロナ自粛でフレイルにならないための予防教室」は令和3年度の浦安市市民活動補助金事業。これ

は、コロナ禍により運動不足が懸念される高齢者を対象に、ベイシニア浦安(浦安市老人クラブ連合会)と連携して、フレイル予防のケアと体操を行うものです。

「地域連携」と「市の補助金」という2つの力を借りて、団体の強みが十二分に発揮される活動。ワクチン接種が進んでいるとはいえ、まだまだ不安な日々は続きます。このような活動が地域で行われること、市民にとっては何より心強いことです。

市民活動補助金・まちづくり活動補助金 令和4年度実施事業を募集します

市民活動補助金 市民活動補助金とは、地域をよりよくするための主体的な活動を促進することを目的としており、団体が行う事業に要する経費の一部を補助する制度です。団体の自立や活動を発展させるために、補助金を活用してみませんか。

募集期間: 令和3年9月1日(水)~30日(木)

市民活動補助金の種類: 補助金の種類は2種類あり、応募できるのは、年度内に1団体1事業までとしています。
※それぞれ2事業程度を補助対象候補事業として選定します。

①自立促進事業(はじめの一步)

会員確保を目的とした団体活動内容の宣伝に関する事業など、団体の自立を促進するのに効果的な事業。
※以前に交付された団体は応募できません。

②活性化事業(ステップアップ)

活動期間が1年以上の団体が主体性を持って行う事業であって、公益性が高く、団体の活動を発展させるのに効果的な事業。
※以前に交付された事業と同じ事業でも、さらなる団体の活性化を図る場合は応募できます。ただし、1団体への交付は3回が上限となります。

まちづくり活動補助金 まちづくり活動補助金制度は、市とまちづくり活動団体が連携及び協力し、地域の課題、行政の課題を解決するために、まちづくり活動団体等から事業を募集し、市とまちづくり活動団体が事業を実施する制度です。

募集期間: 令和3年9月1日(水)~30日(木)

お知らせ

※詳細が決まりましたら、市民活動センターホームページとメールマガジンにてご案内いたします。

●市民活動センター移転のお知らせ

これまで市庁舎1階にてセンターを運営してきましたが、9月上旬(予定)、同じ市庁舎内10階に移転することになりました。会議室、ご利用いただける備品等は、これまでとほぼ同じです。

●市民活動フェスティバル開催について

現在、コロナ禍の状況を見据えて開催時期等、調整しています。例年11月頃に開催していましたが、今年度は2月頃の開催とし、11月には「うらやすNPOウィーク」開催を検討しています。

●まちづくり講座「みんなでSDGs」開催のお知らせ

日時: 9月5日(日)午前10時~12時
場所: うらやす市民大学
講師: 神田外語大学
グローバル・リベラルアーツ学部教授
石井雅章氏

センター日誌より

来館者に入り口でお願いしているアルコール消毒と検温。すっきり定着し、向こうから「検温をお願いします」と声をかけられる場合も。それだけコロナに影響された日々が続いているんだなと感じます。ただ最近、ワクチン接種を終えたという声を来館者の方からもしばしば聞くようになりました。一旦止まらずに入館してもらえ、日が遠くないことを祈るばかりです。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで



発行: 浦安市市民活動センター
2021年7月10日

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎1階)
TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722
E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp
URL http://u-shimin.genki365.net

感染拡大防止のためのお願い 活動の際には、引き続き、『密集』『密接』『密閉』を避け、新しい生活様式を実践し、感染予防にご協力をお願いいたします。